

1 本取組の位置づけ

背景・課題認識

- ・検討開始時点において、都内のコロナ禍による影響を一身とした人流の落ち込みは、回復に至っていない状況。
- ・市内には、古刹・深大寺をはじめ、映画のまち調布、水木マンガの生まれた街 調布、FC東京、近藤勇生誕の地など豊富な地域資源が所在しており、これら地域資源を活用したまちのぎわい創出や回遊性の向上を図り、調布のまちの魅力向上につなげることが重要。
- ・市は、市議会と共同で、令和3年4月に「ゼロカーボンシティ」を目指すことを宣言しており、公共交通の更なる利便性向上やシェアサイクル事業の促進を図る必要がある。

<観光施策を取り巻く潮流>

- 「MaaS※」の普及に向けた取組
 - ・国土交通省において、日本版MaaSの普及に向けて、令和元年度から地域特性に応じた実証事業を支援。
 - ・東京都は、令和2年度に都内計3エリアにおいてMaaS実証実験を実施。(多摩エリアでは京王電鉄株式会社を実施主体として「TAMA-GO」を実施)
 - ※ MaaS (Mobility as a Service) 複数の公共交通やその他移動サービスを最適に組み合わせる検索・予約・決済等を一括で行うサービス
- 「メタ観光※」実装化に向けた取組
 - ・東京都は臨海副都心エリアを対象に「メタ観光マップ」を活用したにぎわい・回遊性の創出プロジェクトを実施。
 - ※ GPS等により位置情報を活用し、ある場所が本来有していた歴史的・文化的文脈に加え、複数のメタレベル情報をICTにより付与することで、多層的な観光的価値や魅力を一体的に運用する観光

- ▶観光・お出かけスポットや地域ならではのイベント情報を一元化し、更なる魅力発信を図る。
- ▶公共交通やシェアサイクルなど、複数の移動手段を組み合わせる各スポット等を巡る経路検索が可能サービスとし、市民・来訪者の回遊性・利便性を向上する。
- ▶域内の人流の活性化につなげる。

調布スマートシティ協議会（移動WG）において令和5年度から検討を開始し、令和6年度～令和7年度に実証事業・効果検証を行う。検証結果を踏まえて今後の展開について検討する。

2 「お出かけ情報サービス」とは

1 マップ・モデルコース機能



- ▶「調布どっことむ」や「ちょみっと」とのシステム連携により、お出かけスポットや地域イベント等の情報をマップ上に自動表示
- ▶「調布市観光マップ」に掲載の観光スポットを表示するほか、おすすめ観光コースをはじめとする周遊に役立つモデルコースを表示

2 リアルタイム経路検索機能 (既存サービス活用)



- ▶公共交通やシェアサイクル等の移動手段を組み合わせることで、各スポットを効果的に巡るために最適な経路を複数提案
- ▶東日本旅客鉄道(株)が提供する「リアルタイム経路検索」を活用し、公共交通機関の実際の遅れを加味した情報をリアルタイムに反映

3 イベント情報・スポット情報の2次元コード化

※画像はイメージです

- ▶ イベント・スポット情報を2次元コード化することが可能
- ▶ コードを読み込むと、POIが選択された状態でサービスを開くことができ、当該イベント会場やスポットまでの経路検索が簡単
- ▶ 経路検索には「リアルタイム経路検索」を活用

▶本サービスにより作成した2次元コードを各種イベントのチラシ・ポスター等へ使用することで、任意の場所からイベント会場までの経路を利用者が簡単に検索できるようになり、移動利便性が向上

3 今後スケジュールなど

